

表 1508 2016年中の出口部感染発症率(回/1患者・年) 治療方法(新分類)別(腹膜透析患者)

治療方法 (新分類)	0	1.0～	2.0～	3.0～	4.0～	5.0～	合計	不明	記載なし	総計	平均	標準偏差
腹膜透析 (CAPD) (%)	2,467 (81.7)	350 (11.6)	118 (3.9)	44 (1.5)	17 (0.6)	24 (0.8)	3,020 (100.0)		1,953	4,973	0.34	1.11
腹膜透析 (APD) (%)	1,349 (80.1)	201 (11.9)	76 (4.5)	34 (2.0)	8 (0.5)	16 (1.0)	1,684 (100.0)		953	2,637	0.36	0.96
腹膜透析 (CCPD) (%)	492 (78.1)	88 (14.0)	29 (4.6)	14 (2.2)	6 (1.0)	1 (0.2)	630 (100.0)		375	1,005	0.35	0.79
合計 (%)	4,308 (80.8)	639 (12.0)	223 (4.2)	92 (1.7)	31 (0.6)	41 (0.8)	5,334 (100.0)		3,281	8,615	0.35	1.03
記載なし (%)												
総計 (%)	4,308 (80.8)	639 (12.0)	223 (4.2)	92 (1.7)	31 (0.6)	41 (0.8)	5,334 (100.0)		3,281	8,615	0.35	1.03

数値下のかっこ内は行方向の合計に対する%です。
 個々の患者の出口部感染発症率(回/1患者・年)は、1.0未満の数値が0となるため、「0」と表示しています。
 *腹膜透析(CCPD)は、APDと手動のバック交換の両方を行うもの
 ##D6010##
 (C)Japanese Society for Dialysis Therapy
 2016年調査